

J I A 「建築家大会 2005 東海」

新人賞公開審査 審査委員 仙田 満
妹島 和世
椎名 英三

全国からの作品約40点の中から、現地調査を行う5点を選ぶ審査会が公開で行われた。作品は1枚のパネルにレイアウトされ会場内に公開されていた。応募者による作品のプレゼンテーションが行われたが、パネルに在る写真と図面だけで時間も短く、なかなか分かりづかった。審査員の各作品に対する批評は3人3様で、それぞれに係る建築が窺われた。

5点に絞るときにもう少し各審査員が主張しあうのかなと思ったら、意外とあっさり決まってしまう拍子抜けした。しかし、全体としては、建築雑誌で紹介された作品もあり楽しめた。



審査会場風景

フォーラム 「建築家資格制度試行の現状と展望」 各支部のパネラー5人による討論

前J I A会長の大字根さん外4人のパネラーが、各支部の現状を報告した。その中で東北支部は登録建築家の現状を調査しており、詳細な各県別のデータを提示された。登録率は60%を超え全国でも高登録率になっている。

また、C P Dの参加率もデータが出ていたが、登録建築家制度への参加者が多い沖縄支部の単位取得率が0%であるのは、今後更新を行う最問題が起こりそうなデータとなっていた。

各地区代表から、登録建築家制度と建築士会の専攻建築士制度との係わりについて意見が出された。地域の代表者からは、設計の兼業専業に関して専攻建築士制度とは一線を画する様にとの意見が出された。国際化に対応する制度と「専兼問題」をどう解決するかは、今後議論を重ねていかなければならない問題と感じた。

パネラー同士の議論だけで時間が過ぎ、会場内からの意見が少なかったのが全国大会としては残念だった。



フォーラム会場風景



受付会場風景

セミナー 「素の視線と空間」子供と建築の接点

講師 鈴木 賢一

講師の鈴木氏の今までの取り組みを、写真を使い紹介された。体で感じる建築や建築の力という内容で、具体的に事例を紹介しながらのセミナーは2時間があったという間に過ぎました。

子供たちとのワークショップは、参加している子供たちの発想の柔らかさに驚かされた。小学校での建築学の授業が少しずつ行われるようになっていくと聞くと、建築家を育てる授業ではないものも有っても良いと思うようになった。建築学科の学生を参加させて行うワークショップはお互いに刺激になるようだった。準備等大変だと思うが、鹿児島でも大学等を中心にNPO等の協力を得ながら出来るのではないかと。



セミナー風景

前夜祭

全国大会の行事の中では、前夜祭が非常に楽しく過ごせた。各支部からの出席者との懇談が、地域の状況などが分かり有意義だった。最初は各支部同士でまとまっていてなかなか話せなかったが、鹿児島の焼酎がきっかけでお互いの出身地の特産品が話題となりお国自慢が始まった。徳島からの出席者は年代も近く、話題もありお互いの苦労話などで盛り上がった。

会場には賛助会員や多くの会員が参加していましたが、若い(30・40代)会員が少ないように思いました。鑑さんが一番若い会員だったように思います。しかし、会場の雰囲気は和やかでした。

全国大会に参加して、各支部の方々と知り合えた。このような機会には出来るだけ参加したいと思います。今回、一緒に建築の視察をした石川さんと鑑さんとも建築を語り合える楽しい時間を過ごすことができました。



前夜祭



鹿児島会の出席者